

せとまち地域活動大交流会 第1回 (平成29年11月24日実施)

★★ テーマ：子育て支援 ★★

各グループ意見まとめ

《契機・活動のきっかけ》

地域の中での子育て、子育て支援・親への支援、
子育ての話し合いや交流の場、子どもや親とのつながりづくり

《現況の活動》

場づくり、機会づくり、環境づくり……サロンや広場、見守り、ふれあい交流、イベント
「日常的活動」と「イベント活動」

《継続のポイント》

課題の共有と目的・成果の明確化
主体的な活動
組織間の連携と交流
地域のできる範囲での活動（頑張りすぎないこと）

《課題》

マナー化・定番化ともいえる、子どもは変わる…一方、子どもの減少
地域力内、地域内での組織やグループ間交流がもっとあってもよい
高齢者に比較し子育ての事業が少ない
地域により年齢分布や問題も違う
子どもの年齢があがると来なくなる
誰が責任を負うのか、地域ではムリ。人材・資金も不足…縛りのない資金（補助）

《今後の方向性》

参加費徴収、成果型（お礼・ありがとう）
地域力全体での取り組み、スタッフ兼任、他団体からの参加も
人材募集イベントや交流会などの開催
空家・学校空き教室活用、休園保育園活用など
地域の独自性を活かし、あえて協働しないことも
自分でできるところから
子ども自身からの企画提案

《これからやってみたいこと》

他地区からの参加や見学の受け入れ、他地域合同バス旅行
学校（小中学校など）連携の拡大
地域と市で子育てネットワークづくり
子育て談義や討論
市による子育てボランティア募集と各地域への派遣
今回のような地域間での交流・情報交換

せとまち地域活動大交流会 第2回 (平成29年11月27日実施)

★★ テーマ：防災活動 ☆★

各グループ意見まとめ

《契機・活動のきっかけ》

女性の視点、女性人員の不足から参加
東日本大震災を契機として防災に参加
友人・知人に誘われて

《継続のポイント》

危険個所の把握とマップの時点更新、台帳見直し
他のイベントと一体・連携して活動（祭り・運動会など）
子どもを巻き込んだ防災活動・防災実践教育、子どもから親への拡大
楽しみながら学ぶ、クイズ形式等での防災知識の向上

《課題》

災害時の行動(避難)マニュアルづくり（一般論ではなく地域にあったもの）
子供と大人、高齢者や災害弱者など対象者別の対応
人材、特に若い人材の確保
中学生、高校生などを人材として活用（連区と小学校区の不一致の所もあり）
マンション（自治会枠外）の防災訓練への参加
災害弱者名簿による安否確認など個人情報の取り扱いと避難時の避難者の把握
予算（資機材の確保・更新）と担い手
どこに何がどれくらいあるのかの把握（わかっている人が常に災害時にいる訳ではない）

《今後の方向性》

町内など小さな単位での防災意識の共有と向上
他の地域の状況を視察などで知りたい
避難や応急時のマニュアルづくりと対象別（男女・子ども）、年代別（弱者）への対応
どんな時に何が必要なのか・優先度と必要度による整理とその情報の共有化

《やってみたい》

夜の避難訓練、宿泊体験
やってみようの精神での取組み・とにかくやってみる
地域・学校・企業連携の防災クラブ結成
各地域間での防災予防・訓練等の成果の競い合い
市と連携した防災訓練参加への呼びかけ
それぞれの地域間での防災に関する意見交換

せとまち地域活動大交流会 第3回 (平成29年11月28日実施)

★★ テーマ：防犯活動 ☆★

各グループ意見まとめ

《契機・活動のきっかけ》

以前からの防犯活動の延長
自治会等での取り組みからの継続

《継続のポイント》

楽しみ、やりがいを見つける
個人個人の声掛け・少し強引でもいいかも
子どもや地域の人への感謝、お礼、あいさつ
責任範囲の明確化・犯罪抑制と広報PR
青パトにおいては対応者・当番等のルール化
できる範囲で行う

《課題》

防犯関連情報や地域の問題・課題、危険箇所等の共有
自分たちのまちは自分たちで守る意識づくり
自治会・警察との連携（予算や研修、人材育成）
高齢化による対応人材の減少、不足
予算・資金
プライバシー・個人情報問題・全体同意は難しい

《今後の方向性》

他の活動との連携：例として防災訓練と地域の運動会と連携した防災意識向上や呼びかけ
防犯灯や門灯などでの明るいまちへ
自分でできる防犯対策の普及・PR
自治会防犯部（3年任期） → 地域力で活動継続へのしくみ、流れづくり

《やってみたい》

防犯・防災+運動会、まつり
監視カメラを設置したい
防犯カメラ設置のPR看板
活動がみんなの楽しみになるような活動に
ありとあらゆることをやる

せとまち地域活動大交流会 第4回 (平成29年11月30日実施)

★★ テーマ：高齢者支援、お助けたい活動 ★★

各グループ意見まとめ

《契機・活動のきっかけ》

困っている高齢者への対応として
これまでの活動の延長線上の活動として
地域住民の声を直接聞く機会として

《継続のポイント》

地域の困りごとや高齢者のニーズを把握して対応する
お助け隊・顔の見える範囲での活動・活動の明確なルール化・便利屋ではない
民間との違い、無料のキッチンとした理由がある
お手本がある。西陵から各連区への広がり・さらに拡大の可能性
顔の見える関係づくり、また他団体との連携も

《課題》

活動の場の確保
マンネリ化・定番化・安心感という面もある
人材不足と活動メンバーの高齢化
地域力と他の組織や団体との連携
参加者の拡大、外国人対応など
資金不足と補助によるお金の使い方の制限・もう少し自由に使いたい

《今後の方向性》

将来の目標を設定しての対応
子どもとのふれあいなど多世代交流の拡大
高齢者の安心の場づくり充実・カフェ、サロン
生きがい、安心、お互い様の地域づくり・お助け隊、参加型活動など
他地区の成功例を参考に
やり方を考え、見直し時期かも・という意見もあり

《やってみたい》

他地域などの視察
健康づくり・健康長寿専門家・病院・他団体との連携による「楽しい」活動
テーマ(例：踊る体操教室など)による相互訪問展開(地域間)
地域力内のグループ間連携
他地域への展開・協働化、横の連携拡大など・子どもや学校との連携も
空き地や空き家の活用
他地域との情報交換

せとまち地域活動大交流会 第5回 (平成29年12月13日実施)

★★ テーマ：環境美化、マナー向上活動 ★★

各グループ意見まとめ

《契機・活動のきっかけ》

なくなりそうな活動を守る
活動が面白い、地域力に面白い人が多く、活動が楽しくなってきた
交流センターの完成を契機に・緑化への取組、センターを利用する子供の成長も楽しみ
最初は人に誘われ、今では抜け出せない

《継続のポイント》

自分も楽しむ、自らも率先して、また一緒に動く
新しい情報を仕入れ、わかりやすく地域の人に伝える
人の巻き込み、住民の巻き込み、小中学生なども巻き込む（ポスター・標語作りなど）
自らの知識、知恵や工夫・水やり方法、品種選定（乾燥に強い）、保水材（多孔石）など
スケジュールをしっかりと立て、資金繰りを考える

《課題》

活動メンバーの高齢化、そして参加住民が増えない
活動メンバーの知識向上や経験の蓄積も必要
子どもたちのスケジュール（部活動など）と活動のスケジュールが合いにくい
花苗、球根の購入に資金が必要、一方、資金は限定、減少も

《今後の方向性》

ギブ&テイクの精神（他団体などとの作業交換・交流）
参加の楽しみ・ご褒美
自治会や他団体と地域力の一体的な活動・パイプ役・情報共有＝連携・企業連携もあり
お金を集める方法・イベントへの出品販売、物々交換も
目に見える効果・「綺麗になった」がわかるよう

《やってみたい》

他の地域力での取り組みを参考にした対応・例：野良猫対策、フン害に石灰など
地域力以外での助成金や補助金制度の活用
他のイベントとの連携した取り組み・同時開催
自らの活動での資金づくり・イベントでの球根・鉢売りなど
子供の意見を聞こう・子どもの関わり、やってみたいこと

《その他・地域力のリセット！》

共通意識がないのでは・一からやり直し、リセットも
目的をはっきりしよう
何が大切か
ルールづくり
成果の確認（目に見える）

せとまち地域活動大交流会 第6回 (平成29年12月18日実施)
★★ テーマ：地域コミュニティ形成、交流、伝統文化継承活動 ★★

各グループ意見まとめ

《契機・活動のきっかけ》

誘われて、だまされて……よかった
人助け、興味関心、忍耐、家族の理解、途中・未完成
友人が増える、タテヨコのつながりが増える

《継続のポイント》

楽しいこと・月1回の飲み会(役員会)など
楽しむ・活動、色んな人のつながり、子どもたちの参加
お祭り::若い人の参加、子どもがいること、地域の中でのつながりの実感
団体間の連携・自治会、社協、地域力内グループ等

《課題》

人材の確保・自治会役員の後には地域力で活躍など
地域にどんな人(経験・能力を持つ人)がいるかわからない
子どもは小学校高学年以降は集まりにくい
既存の活動だけでも大変、役員・中心者の固定
予算の確保と継続・減少
活動の場や連携・小学校区が複数に分かれている
意見を出しても受け入れてもらえない・男女、老若のそれぞれ違う意見も聞いてほしい
現在の活動を次につなげるためには、どうすればよいのか
参加してくれる人を増やしたい

《今後の方向性》

人材不足・60代の若手人材確保、思い切って外部委託も
予算・実費の徴収も
みんなが楽しめる場所、楽しめる機会にしたい。楽しさを伝える
ほかの団体、企業や他地域との連携

《やってみたい》

目的を明確にして、成果が見えるようにする
成果がなければやめればよい・という意識も
若い人や子供たちの参加を得る・成人式実行委員、防災における小中学生の役割分担など
実践的なことをやる、自分事にする、学校連携=小学校の掲示板への掲載
地域で集まるイベント、多世代が参加できるイベント
イベントでは他地域にも参加

せとまち地域活動大交流会 第7回 (平成 29 年 12 月 19 日実施)

★★ テーマ：広報活動 ★★

各グループ意見まとめ

《契機・活動のきっかけ》

「地域力向上委員会」を地域の人に知ってもらうため
立ち上げ、活動・イベント予定、活動内容
地域を知りたいと思った
たまたま……など

《継続のポイント》

義務感ではなく自主的活動
負担をかけずに忍耐で継続、無理せず。読者の励ましの声も
アウトソーシング（外部委託）も
地道で継続的な地域の情報収集

《課題》

マンネリ化・記事内容、執筆者・年限を切って交代（3年や6年）も
スタッフ不足、スタッフ高齢化、編集のためのPC（パソコン）スキル
編集体制の確立、取材から編集・発行までの時間不足
資金不足、カラーで発行もしたい
広報が目につく、手に取って、読んでもらえる工夫・写真を多く、文章少な目か

《今後の方向性》

他地区の広報誌も参考にしたい
会員の声や写真の投稿など ……ルールづくりは必要・広報掲載写真の配布
取材～編集～発行～全戸配布……プロセスの再構築・アウトソースの検討
地域の住民も参加できるものに・地域の声、クイズ、意見等
もっと地域の魅力やいい所を伝える・イベント・祭りや人物紹介があってもいい

《やってみたい》

何かをクローズアップしてやってみたい
若手の一本釣りと育成
読者モニター、アンテナの活用
個人を取り上げるのもいいのかな
HP（現状やや使いにくい）や SNS の積極的活用
各団体の広報を一定まとめることも検討したい
子どもの紹介をしてみてもいい・紹介されるとうれしい。自分も。関係者は必ず見る。
小学校の掲示板を確保・広報誌の掲載 学校との連携が必要
資金確保・企業広告、企業が公告を出したがるような工夫